

研修報告書 No.18

研修先： 大井田病院

2021年12月1日から1ヶ月間、高知県宿毛市の大井田病院にて研修させていただきました。本研修に関しまして、ご報告させていただきます。

まず初めに、このようなコロナ禍の中、県外病院から研修医の受け入れを容認して下さった高知医療再生機構の皆様、大井田病院の職員の皆様に、心より感謝申し上げます。1ヶ月間、今後の糧となるような経験がたくさん出来ました。

多くの方々が報告書に書いておられます通り、高知県は4つの医療圏に分かれており、大井田病院はそのうち幡多地域の医療を担っている地域の中核病院です。

人口8万人ほどの規模の幡多地域の中で、人口2万人と最も多い宿毛市に大井田病院があります。近くには急性期を担う幡多けんみん病院もありましたが、周辺には他に大きな病院も少なく、隣の町から患者さんがいらっしゃることもありました。高知県は全国的に見ても高齢化が進んでおり、そんな中で大井田病院は、地域を担う病院として、一丸となって手厚いケアを心がけているような病院でした。

大井田病院での研修内容は、外科外来、内科外来、小児科外来と、健診、訪問診療、病棟と多岐に渡りました。自身の研修病院では基本的に病棟と救急外来での経験がほとんどであったため、色々な経験ができてとても貴重な研修をさせていただきました。大学病院と違い、診療科が分かれていない分、また、紹介状という壁がない分、患者さんの主訴は多岐に渡り、そのひとつひとつの対応もそれぞれ勉強になりました。更に、限られた医療資源の中で、いかに工夫して患者さんの満足度をあげるかに関しては、訪問医療も含め、学ぶべきところが多くありました。

外来では、熱傷の処置や縫合処置などだけでなく、腹腔穿刺やエコー検査、内視鏡検査など、様々なことを体験させていただきました。特に、スクリーニングエコーは、研修病院では技師さんがやってくれるため、少しでも流れや見方を学べたことは大きな糧となりました。地域医療研修ではエコーを自分で当てる機会がとても多く、腹部エコーだけでなく下肢エコーなども含め、侵襲の少ない超音波検査でいかに沢山のことを知ることができるのかを実感するよい機会となりました。

また、地域医療ならではの経験もさせていただきました。特に自分で訪問診療をした患者さんのご自宅でのお看取りの経験は、本当に貴重で得難い経験となりました。訪問診療を通して、自宅を死に場所を選ぶことのできるありがたさと、その選択肢をつくることのできる環境作りがいかに大変なことか、医療者としてどのように向き合うことが大切なのかを深く考えさせられました。慣れ親しんだ自宅で家族に見守られ亡くなるのが、とても尊いことだと実際に目で見て感じる事ができたことは、自分の中で大きな経験となりました。自宅で

看取ることを選んだ家族のサポートと医療者のサポート、またそれらを可能にする周囲の環境など、いかに寄り添った医療を提供するか、また、その提供を可能にするために、細やかなシステムを作ることが大切だと感じ、特に自分が住んでいる都心では、まだまだ至らないことが沢山あるのだなと強く感じました。同時に、こういった寄り添う医療を実現するためには、患者を診るだけでなく、家族をみる、果てには、環境をみることも大切なのだということを強く感じました。終末期のケアの手厚さには、沢山の学びがありました。これからも長く続く医師生活でも、この体験を活かしていけたらと考えております。

また、乳児健診に同行させて頂けたことも、とても良い経験になりました。大学病院では健康な子供を診る機会が少ないため、診るべきポイントや正常児の発達に関して、沢山のことを学ぶことができました。他にも、小児の発達支援なども、どのような方法を取っているのかを知ることができ、大変勉強になりました。小児科外来では、様々な common disease に触れることができ、また多くの経験をさせて頂けたことで、自分の中の将来的な像を考えるきっかけになりました。

最後になりますが、このような情勢の中、県外病院から研修医の受け入れを容認して下さった高知医療再生機構の皆様、大井田病院の職員の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。みなさまのこれからのご健勝とご活躍をお祈りさせていただきます。1ヶ月間、本当にありがとうございました。